



# TNFDベータ版 フレームワークの 導入

取締役会や企業経営者は、  
自然関連のリスクと機会について何を知るべきか



**私**たちは、非常に長い間、自然の恩恵を当然のように受け取ってきました。しかし、それが当然のことではないと気づくのが遅すぎたかもしれません。自然は、ビジネスと金融を含むすべての人々にとって重要です。しかし私たちは、地球上の自然の修復能力や資源生成能力の限界を意味する「プラネタリー・バウンダリー」を超えて活動を拡大させることはできません。私たちの経済活動は自然と調和しながら成長する必要があり、それは自然が気候と結びついていることから特に重要です。

KPMGの専門家は、持続可能な未来に向けた資本市場と経済活動の変革を支援し、自然関連財務情報開示タスクフォース (TNFD) の取組みに当初から携わってきました。

TNFDは、自然の価値を体系的で市場主導型のフレームワークに組み込んでいくために、金融の役割をより効果的かつ有意義に利用していく重要なグローバルのイニシアチブであり、ネイチャーポジティブな経済を主流としていくことを指向しています。現在、企業と金融機関には、ベータ版フレームワークのテストに参加しフィードバックを提供することで、フレームワークの開発に貢献し、その普及を支援することが期待されています。KPMGの専門家は、今後も引き続きこのプロセスを支援していきます。

KPMGインターナショナル 自然資本・生物多様性担当 グローバルリーダー  
TNFDタスクフォースメンバー  
**Carolyn Leeshaa**

自然環境に対する負荷は、時を経るにつれて著しく高まっています。自然の喪失を食い止め、持続可能な経済成長に貢献する自然の力を守ることは、企業および金融の安定性にとって大きなリスクであるだけでなく、機会をもたらす重要な課題です。

あらゆる企業は、直接的に、またはそのサプライチェーンを通じて、自然と自然が提供するサービスに依存しています。また、自然への依存度が高い企業は、自然の劣化や生態系の喪失の影響をもたらすリスクにさらされる度合いも高いと考えられます。このような理由から、金融市場において下記のような動向が強まっています。

- 財務およびビジネス上の意思決定に自然を考慮すべきという圧力が高まっている
- 企業およびその他の組織は、ビジネスへの影響と自然への依存を測定し報告するためのガイダンスを必要としている

TNFDは、組織が自然関連リスクにどのようにさらされているかを報告することを可能にするフレームワークの初版プロトタイプと提言を公表しました。このフレームワークによって、組織の戦略、事業活動、リスク管理、指標および目標に自然関連リスクが組み込まれます。

TNFD提言で求められる内容の複雑さを踏まえると、企業には速やかに対策を講じることが推奨されます。TNFDフレームワークの最終版は2023年9月に発行されますが、組織が自然関連リスクの測定と管理にいち早く着手するために、今から始められることがあります。

本レポートでは、取締役会および企業経営者が自然関連リスク・機会について何を知るべきか、自社のビジネスモデルをどのように変えることできるかについて、概要を示しています。

# 目次

<b>1</b>	TNFDとその目的 <b>04</b>	<b>6</b>	TNFDフレームワークの開発方法 <b>17</b>
<b>2</b>	TNFDの公表資料 <b>06</b>	<b>7</b>	求められる開示情報 <b>19</b>
<b>3</b>	自然、自然資本とは <b>08</b>	<b>8</b>	公表されたその他のガイダンス <b>22</b>
<b>4</b>	自然が企業と投資家にとって 重要である理由 <b>11</b>	<b>9</b>	ESG報告へのTNFDの組み込み <b>24</b>
<b>5</b>	自然関連リスクと機会 <b>14</b>	<b>10</b>	組織が今すべきこと <b>26</b>

# 1 TNFDと その目的

自然関連財務情報開示タスクフォース (TNFD: Taskforce on Nature-related Financial Disclosures) は、財務上およびビジネス面での意思決定において自然を考慮する必要性への認識が高まっていることを受けて設立されました。

TNFDは、グローバルで、市場主導型の、科学的根拠に基づいた、各国政府が支援するイニシアチブであり、以下を目的としています。

- 企業や金融機関が**自然に関する依存関係および自然への影響の評価、管理、報告**を可能にする、実務的かつ一貫性のある**リスク管理および情報開示に関するフレームワーク**を開発すること、
- **自然に関連するリスクと機会の評価を支援すること、**
- そして、最終目的は、**グローバルの金融の流れを、自然を損なうビジネス活動から遠ざけ、自然に役立つビジネス活動へと向かわせる方向転換を支援することです。**



TNFDは、グローバルな金融コミュニティ、企業、およびナレッジパートナーとして世界を代表する科学関連組織および基準設定主体、ならびに、政府といった多数の団体により支援されています。また、G7の財務大臣およびG20サステナブル・ファイナンス・ロードマップにより、その活動への支持が公表されています。

また、TNFDは、国連生物多様性条約 (CBD: Convention on Biological Diversity) のポスト2020生物多様性枠組における3つの国際目標「①2020から自然のネットロスゼロに ②2030までにネットポジティブに ③2050までに自然の完全回復を」を広く解釈し整合することを目指しています。

企業や投資家は、戦略的意思決定およびリスク管理に自然を関連付け、組み込むにあたり、自らがさらされている自然関連リスクと機会に対する理解を深める必要があります。それによって、企業は、自然がもたらす自社のビジネスへの影響はかなるものか、そして、自社のビジネスが自然に及ぼす影響を与えているかについて、効果的に報告することができます。投資家は、堅牢かつ比較可能な開示を入手できるようになってはじめて、自らの資本配分にかかる意思決定に自然を関連付け、組み込むことができます。

TNFDフレームワークは、新しい時代の流れに向かって進んでいく企業と開示情報の利用者を支援することを目的としています。

TNFDフレームワークを導入することにより、あらゆるセクターの組織が自然とビジネスの関係性をより深く理解し、科学に基づいた情報が織り込まれた意思決定を行い、リスクの軽減とレジリエンスの構築を実現することができます。そして究極的には、自然の保護と繁栄や、ネイチャー・ポジティブな未来において創出される機会の活用に向けた戦略の推進へとつながります。また、TNFDフレームワークは、企業や金融機関が規制の強化に備え、対応する際にも役立ちます。

「ネイチャー・ポジティブ」とは、自然の喪失を食い止め回復させるために、地球と社会のレジリエンスを高めることです。G7首脳が署名した「[G7 2030年自然協約](#)」は、ネイチャー・ポジティブと呼べる活動を取り上げ、可及的速やかにグローバルシステム全体にわたる変化を要求しています。この自然協約では、「私たちの世界は、ネットゼロを達成するのみならず、(略)ネイチャー・ポジティブを達成しなければならない」との誓約がなされています。ネイチャー・ポジティブへのアプローチは、生物多様性を豊かにし、炭素を貯留し、水を浄化し、パンデミックのリスクを低減することにつながります。つまり、地球と社会のレジリエンスの強化につながります。— 2021年世界経済フォーラム (WEF)



# 2

## TNFDの 公表資料

TNFDは、気候関連財務情報開示タスクフォース (TCFD: Task Force on Climate-Related Financial Disclosures) のアプローチを基に構築され、国際サステナビリティ基準審議会 (ISSB: International Sustainability Standard Board) が現在開発中のサステナビリティ開示のためのグローバル基準と整合しています。また、TNFDは、開示を行う、または求められる組織に対して、グローバルな基準に加え、重要性の考え方に基づくより柔軟な開示の可能性を示します。

公表資料の中には、自然関連リスクの管理および情報開示に関するフレームワークのプロトタイプである最初のベータ版 (v0.1) があります。

TNFDフレームワークのベータ版は、次の3つのコア要素について言及しています。

1. 「自然」「影響と依存」「自然関連のリスクと機会」の**基本概念の定義**を伴う**言語体系**
2. 自然関連リスクと機会に対する**推奨開示のドラフトセット**
3. **自然関連リスクと機会に関する体系的かつ段階的な評価プロセス** (LEAPアプローチ)



最初のベータ版は主に、**財務報告書の作成者と利用者（投資家や債権者、保険会社など）、そしてリスク管理・事業部門**を対象としています。

推奨開示のドラフトでは、情報開示のプロセスは、企業のガバナンス、リスク管理および戦略的計画に関するプロセスに基づき、かつそれらの改善を推進するものとされています。

そのようなプロセス改善を通じて、企業や投資家は、自然関連リスクと機会、依存と影響がどのような財務的影響をもたらすのかにつき理解を深めることができます。これにより、投資をネイチャーネガティブなアウトカムから遠ざけ、ネイチャーポジティブな解決、機会、ビジネスモデルへと向かわせるように市場に働きかけます。そして究極的には、総合的な価値創造に資する報告の強化および市場の効率化・機能の向上を推進します。

## TNFDの推奨開示のドラフトは、以下を目標としている

- 取締役会および経営者レベルのリスク管理、そして最終的には企業による資本配分と資産評価の決定を支援するためのより良い情報の提供
- 金融機関における、より多くの情報に基づく投資、信用、保険引受に関する意思決定の促進
- 自然への依存と影響に関するインサイトに基づいた、自然関連のリスクと機会へのより深い理解

# 3

## 自然、 自然資本とは

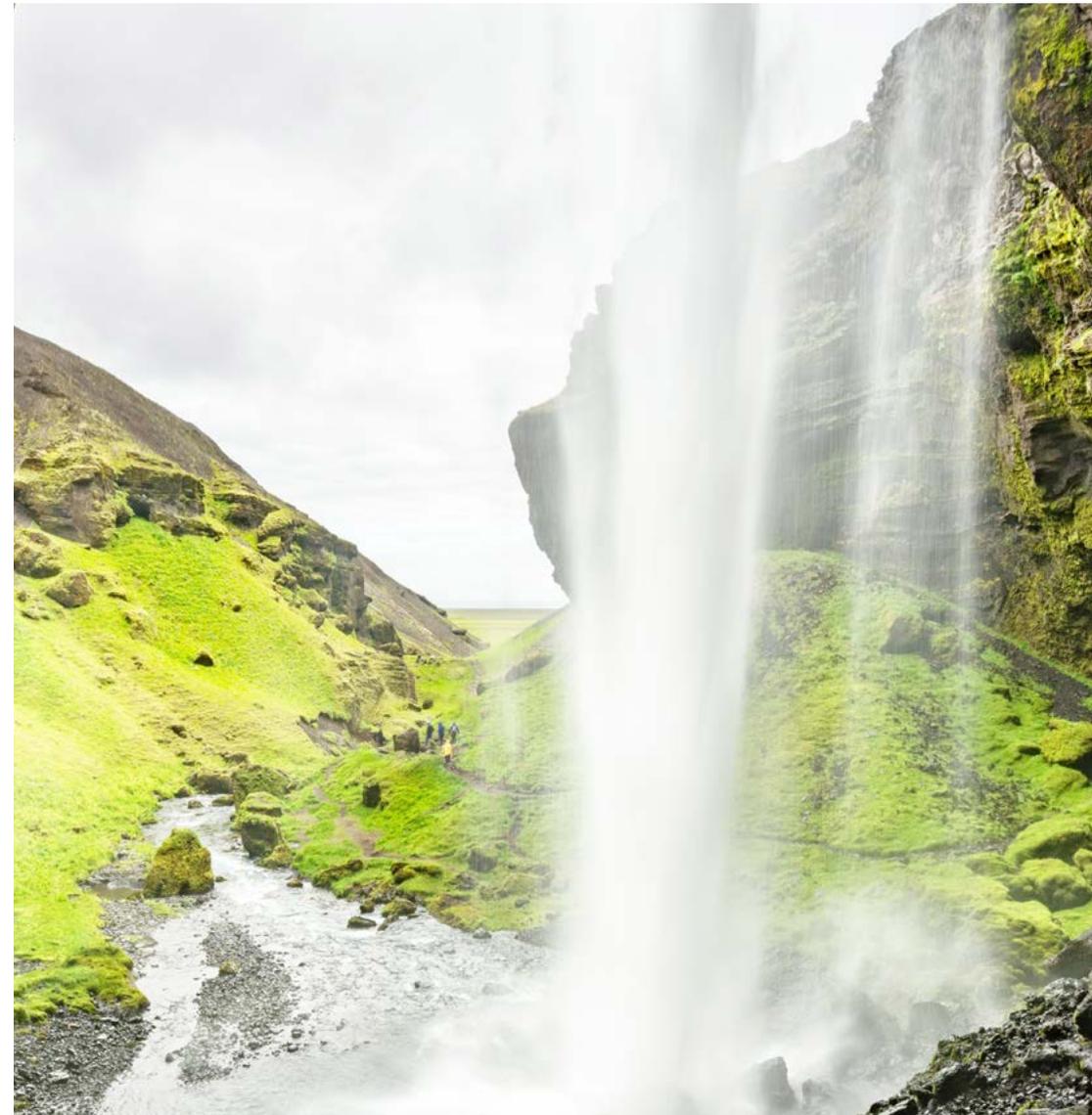
自然は、海、陸、淡水、大気の4つの領域で構成されていると考えることができます。

TNFDは、「自然」を自然界と定義し、人間を含む生物の多様性、生物間の相互作用と環境を重要視しています。人間も自然の一部であり、切り離せる存在ではありません。

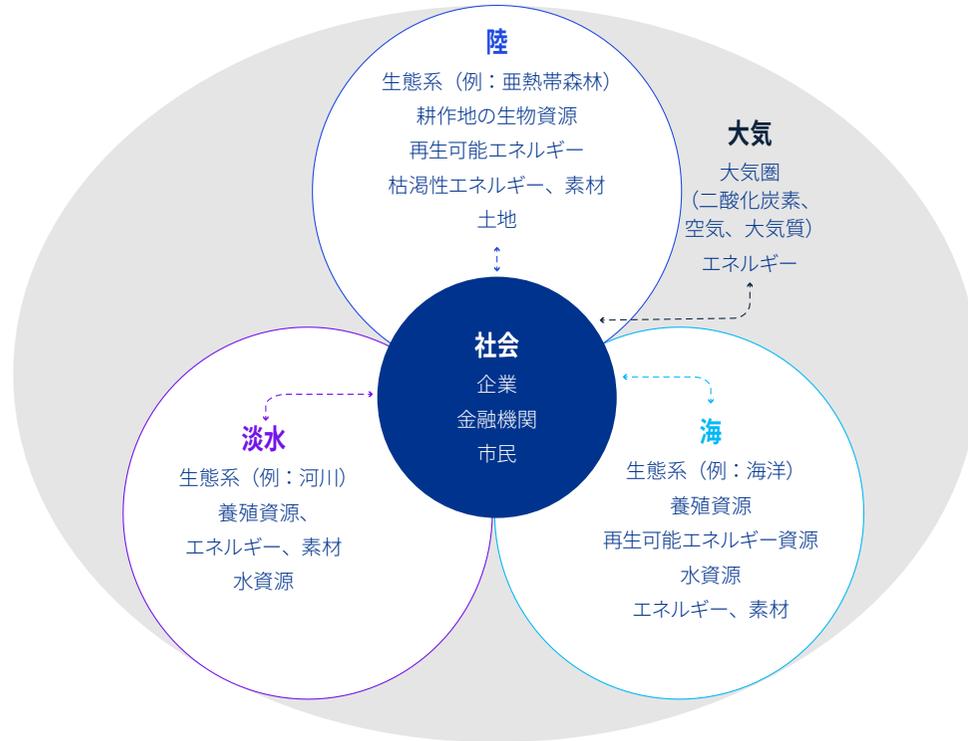
生物が生息する空間、つまり自然界は生物圏とも呼ばれます。

前述の4つの領域を認識することにより、人々に資源とサービスを提供する自然資本に、どれほど社会が依存し影響を与えているかを理解することができます。

自然は私たちにとって貴重な資産です。資本は、従来、金銭のみを指すものと考えられてきました。しかし、現在では、人々と経済に対する価値を蓄え、提供する資源と資産すべてを指すと考えられます。自然資本という概念において、自然は、従来の資本とほぼ同じように位置づけられます。つまり、私たちが自然に対して投資すれば自然は価値を生み出しますが、一方で自然を毀損した場合、その価値は制限されるということです。



## 各領域の環境資産



出典：TNFD発行ベータ版V0.1、2022年3月



### 生物多様性

「生物多様性」は、動物、植物、その他の生物や、それらが生息する生態系を含む、地球上の生命の多様性を意味する。この生物多様性は自然界に存在するすべてのものの基盤としての役割を果たしており、私たちが生命および生活を維持するために必要なすべての物質を支えている。



### 自然資本

「自然資本」は、樹木、土壌、大気、水、およびあらゆる生命体を含む、地球上の再生可能資源、あるいは、枯渇性資源のストックを意味する<sup>1</sup>。

自然資本はさまざまな便益、いわゆる自然の恵みであるフローを生み出し、それらは次の4つのカテゴリーに分類される。



### 供給サービス

食料、繊維、原材料、淡水または医療資源などの、生態系から得られる産物またはエネルギーの創出。



### 基盤サービス

例えば、栄養循環、土壌形成、受粉が挙げられる。



### 調整サービス

生態系が制御を担う調整弁として働くことによりもたらされる便益。例えば、炭素隔離 (固定化・貯留)、地域的气候、大気質、異常気象および生態学的な災害 (例: 山火事、洪水、地滑り等) の緩和、疾病制御。



### 文化的サービス

レクリエーションおよび心身の健康、精神的・文化的な便益、センス・オブ・プレイス\*と帰属意識。

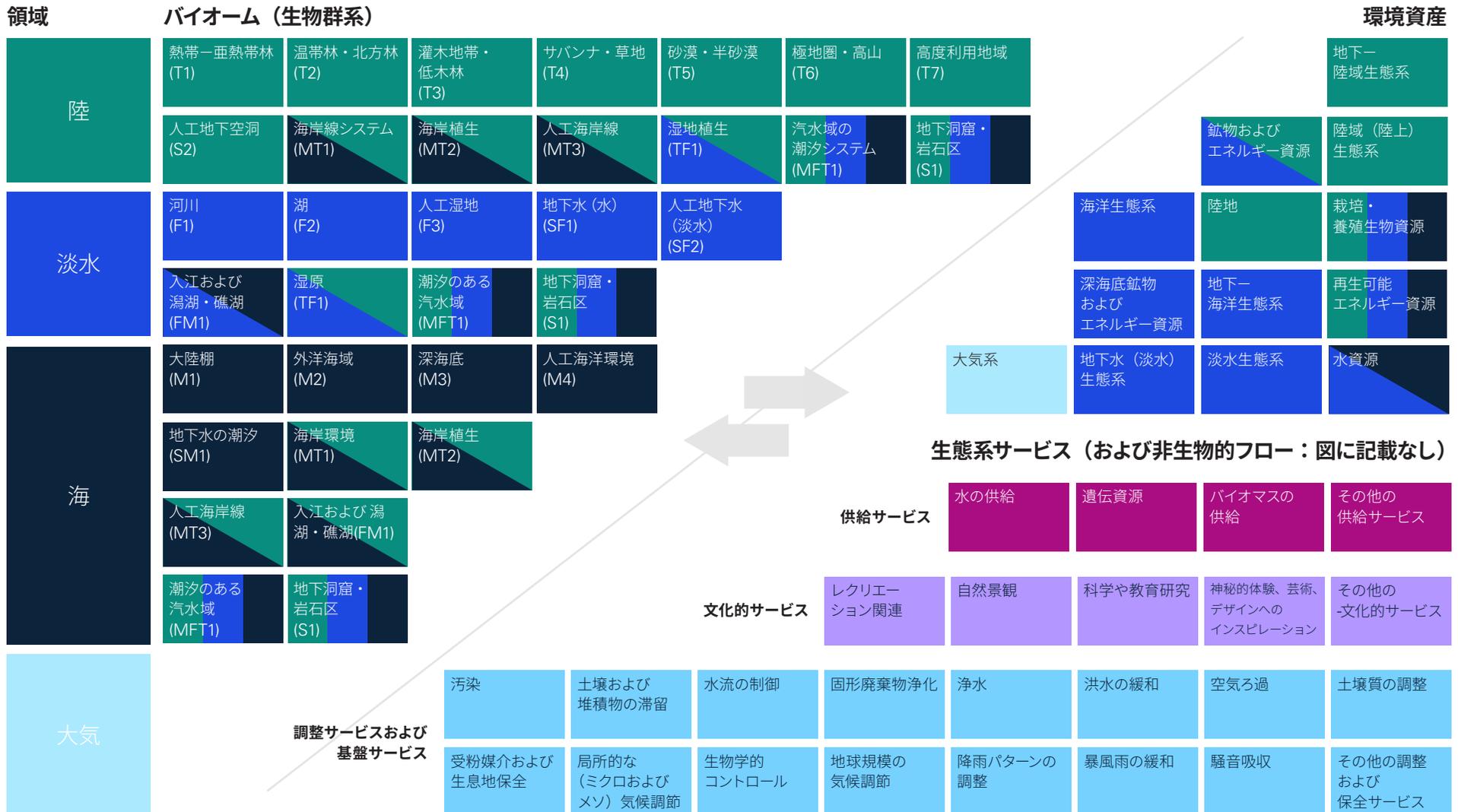
\*郷愁や神聖さなど、場所に対する感情を示す環境心理学用語

1 What is natural capital? (naturalcapitalforum.com)

## 自然を理解するための基礎

市場参加者が自然への理解・関与を深めることに役立つ「周期表」

国際連合（2021年）「System of Environmental-Economic Accounting」および国際自然保護連合（IUCN）（2020年）「Global Ecosystem Typology (GET) 2.0」よりTNFD作成、KPMG翻訳



出典：TNFD発行ベータ版V0.1、2022年3月

# 4

## 自然が企業と投資家にとって重要である理由

世界経済に対する自然の貢献は、金額にして年間約125兆米ドルと見積もられています。また、世界のGDPの50%を超える金額(44兆米ドル)が、自然や生態系サービスに中程度または高程度に依存しています<sup>2</sup>。しかし、投資家や企業、政策立案者は、その意思決定と実務において、自然の真の価値を認識できていません。

あらゆる企業は、直接的に、またはそのサプライチェーンを通じて、自然と自然が提供するサービスに依存しています。また自然への依存度が高い企業は、自然の劣化や生態系の喪失の影響によるリスクにさらされる度合いも高いと考えられます。

事業および投資活動は自然の喪失を直接的および間接的に加速させ、ビジネスおよび社会に対してリスクと機会を生み出しています。私たちが存続し繁栄しつづけていくためには、自然資本を保護し再生する必要があります。



2 世界経済フォーラム：Nature Risk Rising: Why the Crisis Engulfing Nature Matters for Business and the Economy (2020年1月)

一方で、ネイチャー・ポジティブの方針を持ち、実践し、投資を推進している企業や政府は、多くの機会を得ることになります。ネイチャー・ポジティブな経済への移行は、395百万件の新たな雇用を創出し、年間で10兆米ドルのビジネス上の価値をもたらすように考えられています<sup>3</sup>。

世界経済フォーラムが発表した「グローバルリスク報告書2022年版」において、生物多様性の喪失や生態系の崩壊が人類が近い将来に直面するリスクの上位5位の1つに数えられるのも当然のことです。

しかし、ガバナンスや戦略、リスク管理を通じて、このような問題に積極的に対処することで、企業は、例えば資産価値の切下げ、サプライチェーンの復元力、需要の変化等に関連する財務上の機会を得ます（またはリスクにさらされます）。

自然の喪失は、企業が利用する重要な生態系サービスに、短期的にも長期的にも影響を及ぼします。

特に金融セクターは、融資や投資、引受業務を通じて自然関連リスクに大きな影響を及ぼしているだけでなく、資産配分の意思決定においては自然の喪失リスクの高まりによる影響を受けています。

自然と企業間の複雑な依存と影響の関係は、長期的に収益とキャッシュ・フローの脆弱性を引き起こす可能性があり、また、発生した脆弱性は、市場リスクや信用リスク、流動性リスク、オペレーショナル・リスクなど広範囲にわたる財務上のリスクへと波及します。

企業レベルでは、「影響」と「依存」というレンズを通して、自然に関連するリスクと機会に対する理解が最も深まるといえる。これらの概念は、経済協力開発機構（OECD）により、以下のように定義される<sup>4</sup>。



## 影響

組織の事業活動が自然に対してどのような影響を与えるか（組織から自然へのネガティブまたはポジティブなインパクト、つまり内側から外側への作用）。

例：化学物質による環境汚染（ネガティブな影響）、森林再生および植林（ポジティブな影響）



## 依存

自然が組織の直近の財務的なパフォーマンスに対してどのような影響を与えるか（自然から組織へのネガティブまたはポジティブなインパクト、つまり外側から内側への作用）。

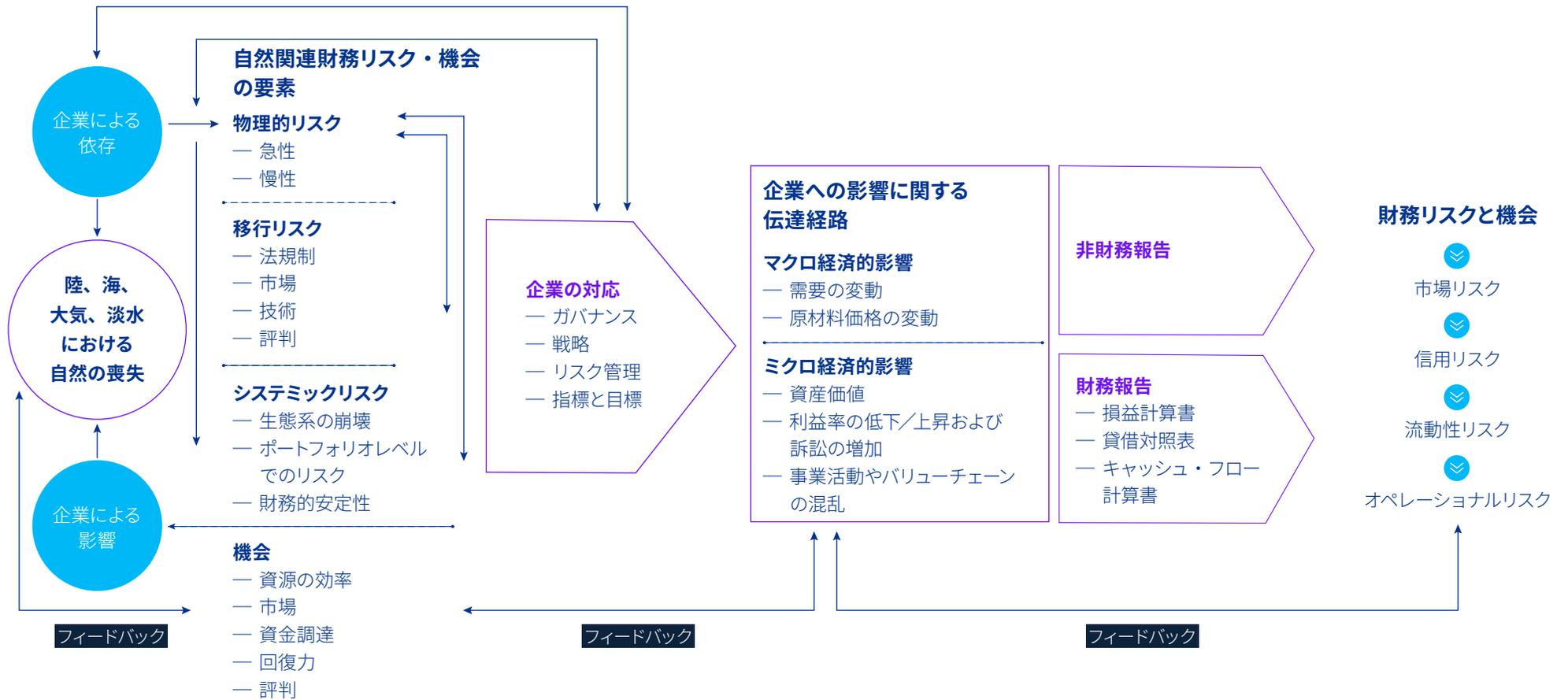
例：猛暑（ネガティブな依存）や肥沃な土壌（ポジティブな依存）



3 世界経済フォーラム：[How our economy could become more 'nature-positive'](#) (2022年2月14日)

4 [経済協力開発機構（OECD）ホームページ](#)

## 自然の変化は、企業価値に影響を及ぼし、財務リスクと機会を生み出す



出典：TNFDベータ版V0.1リリース（2022年3月）

# 5

## 自然関連リスクと 機会

### 自然関連リスクとは

**自然関連リスク**は、自然への依存や影響から生じる、企業や投資家に対する潜在的な脅威を指します。その中には、物理的リスク、移行リスク、システムックリスク、短期的および長期的な財務リスクが含まれます。

**物理的リスク**は、気候の影響（異常気象）や地質学的事象（地震）、土壌の質や海洋などの生態系の均衡の変化によって、自然のシステムが毀損されたときに生じます。

**移行リスク**は、企業または投資家における戦略・運用と規制・政策環境の変化の間での不均衡によって生じます。移行リスクは、政府の施策や技術の発展、市場の変化、訴訟、消費者の選好の変化など、生物多様性と生態系へのダメージを食い止め、それらを回復する取組みによって影響を受けます。

**システムックリスク**は、経済の個別要素における失敗というよりも、経済システム全体の機能停止により生じます。その特徴は、小さな臨界点が組み合わさって大規模な機能停止が発生することです。つまり、システム上のリスクは、物理的リスクと移行リスクが波及することで生じます。1つの要素の喪失が他の要素の喪失の連鎖を引き起こします。システムックリスクが顕在化すると、システムは均衡を取り戻すことができなくなります。



世界経済は、プラネタリー・バウンダリーに向かって急速に突き進んでいます。これは人類によって引き起こされた未曾有の事態といえます。この変化は非常に劇的なものであり、私たちの生活様式を不可逆的に変容させるものです。この変化はいずれ、地球上に張り巡らされたシステムを介して波紋のように広がり、私たちの経済や人々、コミュニティの繁栄、そして企業の持続的な成長力に影響を及ぼすことになります。

## 自然関連リスク



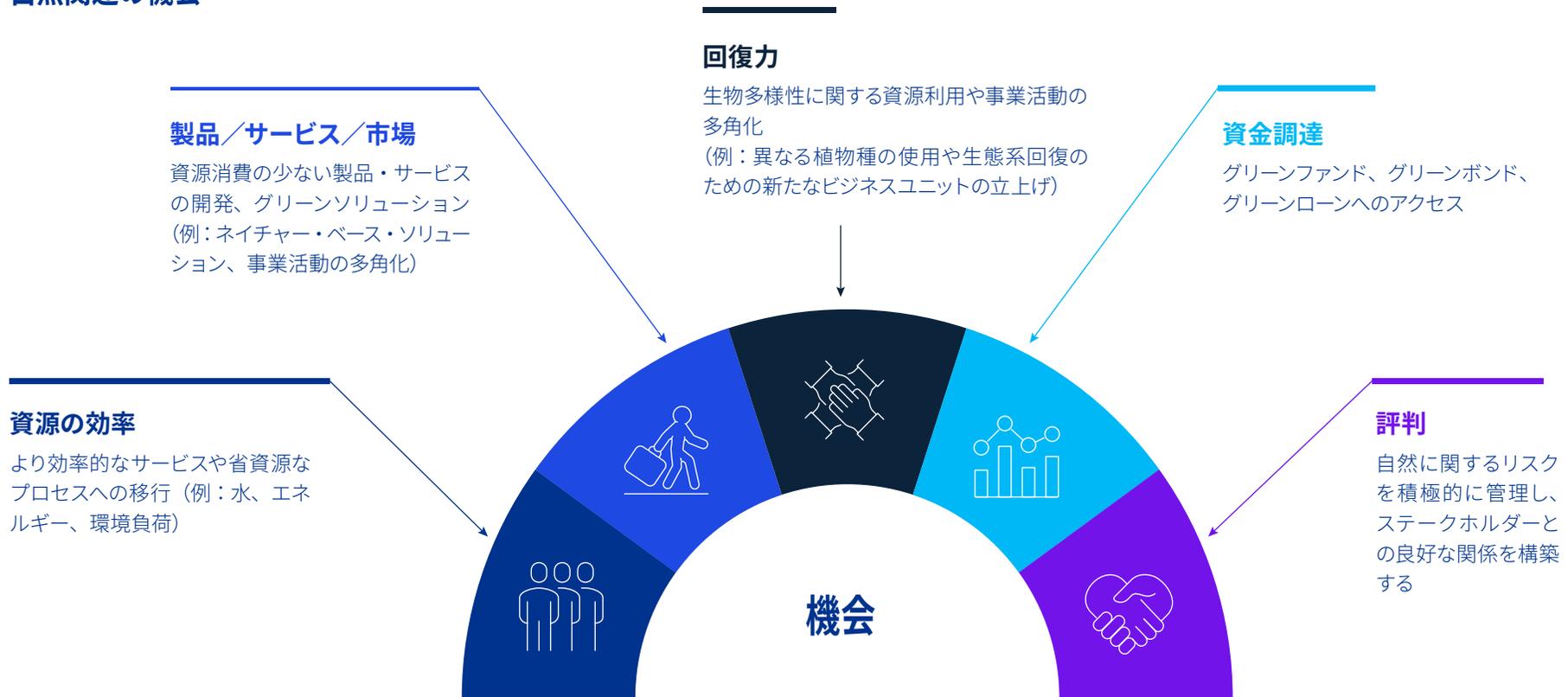
出典：TNFD発行ベータ版V0.1、2022年3月

### 自然関連の機会とは

自然関連の機会とは、自然への影響を回避または低減し、自然の回復に貢献することによって、企業や投資家および自然にプラスの結果をもたらす活動を指します。自然関連の機会は次のような場合に生じます。

1. 企業が自然資本および生態系の喪失リスクを軽減する場合
2. 自然の喪失を食い止める、または自然を回復することに積極的に取り組むビジネスモデル、商品、サービス、投資への戦略的移行を実施している場合（「ネイチャー・ベース・ソリューション (NbS: Nature-based Solutions)」の実施や、それに対する融資もしくは保険を通じた支援を含む）

### 自然関連の機会



出典：TNFD発行ベータ版V0.1、2022年3月

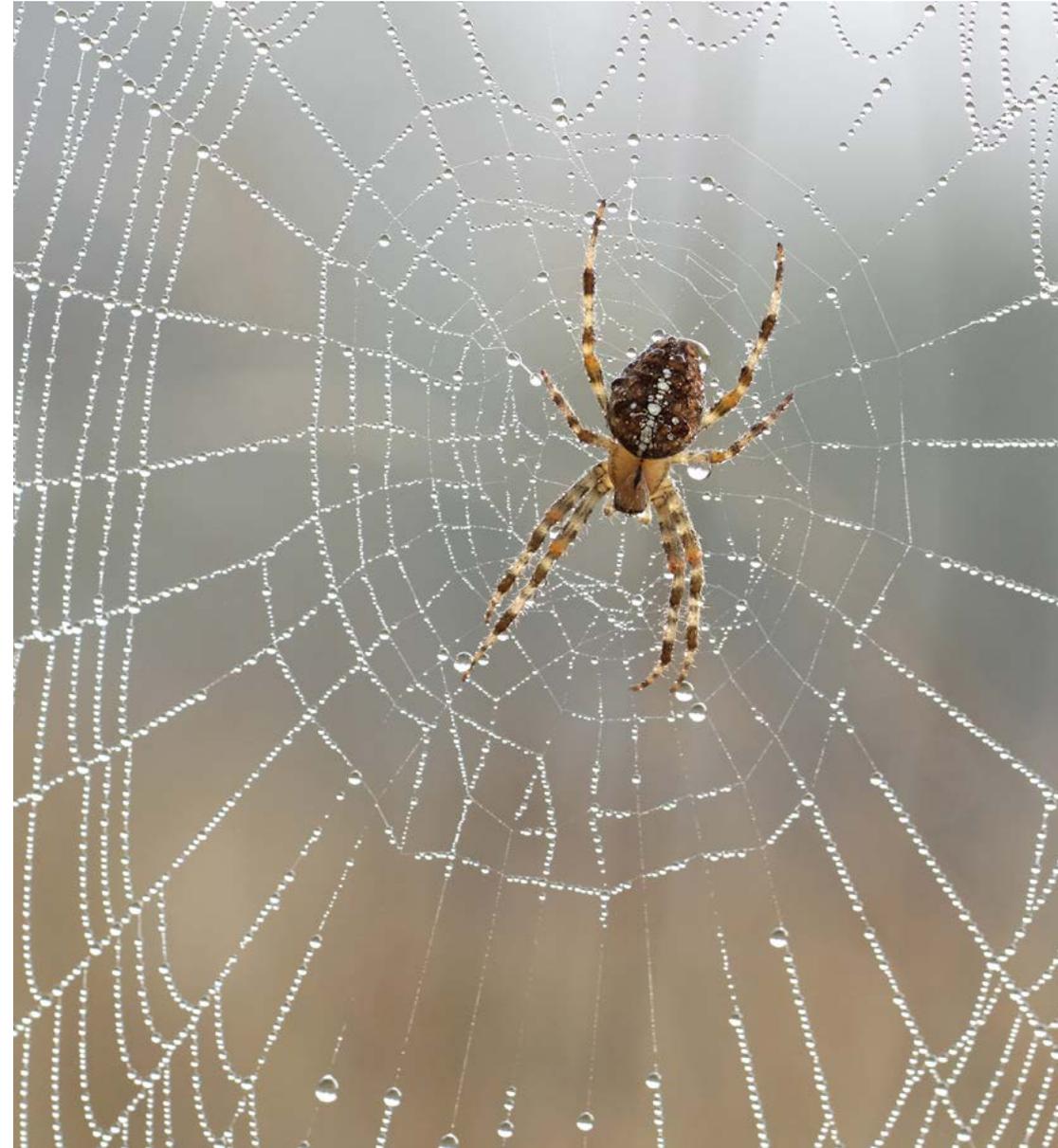
# 6

## TNFD フレームワークの 開発方法

TNFDのタスクフォースは、科学、基準設定、データ、テクノロジー、金融、ビジネス、政策、規制などの分野のナレッジパートナーから構成されるグローバルネットワークが提供する専門知識を活用し、幅広い市場参加者との**イノベーションに対するオープンなアプローチ**を通じてTNFDフレームワークを開発しています。

2022年から2023年にかけてリリースされるベータ版に対して毎回実施されるフィードバック、パイロットテストの実施により、ベータ版は版を重ねるごとに精緻化され、また企業は2023年9月に公表されるTNFDフレームワーク最終版の適用に向けて備えることが可能となります。

タスクフォースは、市場参加者からのフィードバックに基づき、新たなテーマに関して、地域やセクターごとに焦点を絞ったグループディスカッションを開催する予定です。また、市場からの要請に基づき、TNFDの認知度を高め、TNFDフレームワークへのフィードバックやパイロットテストを推進するために、一部の市場において国家レベルでのコンサルテーション・グループの創設を支援しています。



## TNFDフレームワークのベータ版リリーススケジュール



出典：TNFDベータ版V0.1、2022年3月

タスクフォースは、多くの国際機関との連携することで、地域社会と先住民に対しコミュニケーションの手段を提供し、TNFDフレームワークの設計・開発プロセスに対する情報提供や意見の表明を可能としています。

今後リリースされるフレームワークのベータ版では、以下を含む重要な追加項目が入る予定です。

- 自然と気候の相互関係の構築（気候変動と自然環境の統合）
- 自然関連のシナリオの策定
- ネイチャー・ポジティブの定義
- 自然が持つ社会的側面に関する情報
- セクター固有のガイダンス、特に最もリスクにさらされているとみなされるセクター向けのガイダンス（例：食品およびアグリビジネス、金融機関）
- 関連する指標について、開示に向けた追加的なガイダンスと事例

タスクフォースは、TNFDのインタラクティブなオンラインプラットフォーム上でTNFD開示フレームワークの現在または将来のプロトタイプをテストしフィードバックを提供することによる、フレームワーク開発への参加を呼びかけている。

— <https://framework.tnfd.global/>

# 7

## 求められる 開示情報

TNFDの推奨開示のドラフトは、次ページのイメージのとおり、水面上ではTCFDによって採用された「4つの柱（ガバナンス、戦略、リスク管理、指標と目標）」によるアプローチに明確に従っており、これは、TNFDが提言する開示をTCFDが提言する開示と密接に整合させることにより、統合的な開示に向けた動きを促進・奨励することを意図しています。

しかしながら、自然の複雑さを考慮すると、水面下ではTNFDは自然固有のアプローチを取り、今後リリースされるフレームワークのベータ版においてそれに関するガイダンスを提供すると見込まれています。

情報開示に関するTNFD提言は、公的機関が、自然関連のシステムリスクを評価するにあたり用いることも考えられます。



## 提言とガイダンス

### 提言

一般的に採用される4つの提言：ガバナンス、戦略、リスク管理、および指標と目標

### 提案されている情報開示

意思決定に有用な情報を提供するために企業が財務報告書に含めるべき、特定の推奨開示事項

### すべてのセクターへのガイダンス

すべての企業に対し、推奨される開示の背景と、開示を実施するための提案を提供するガイダンス

### 特定のセクターへの補足的ガイダンス

特定のセクターにおける重要な考慮事項に焦点を当て、これらのセクターにおける気候関連の潜在的な財務インパクトの、より完全な全体像を提供するガイダンス  
金融セクターおよび気候変動の影響を最も受ける可能性のある非金融セクターについて、補足的なガイダンスを提供

出典：TNFD Framework, March 2022 adapted from TCFD

# 開発中のTNFD開示フレームワークベータ版の提言（ドラフト, v0.1）

ロケーションを含むいくつかの新たな開示については、現在開発が進んでいます

## 一般的な要件

開示は以下のような点を根拠とするべきである：



自然に関する  
依存関係や  
自然の影響について  
の評価



ロケーション  
の検討



自然関連リスクと  
機会の評価および  
管理に関する能力  
の検討



開示の範囲と  
今後の開示で  
扱われる内容に  
ついての記述

## 推奨される開示（ドラフト）



### ガバナンス

自然関連リスクと機会に関する組織のガバナンスを開示する。

- A. 自然関連リスクと機会に関する取締役会の監視について説明する。
- B. 自然関連リスクと機会の評価と管理における経営者の役割について説明する。



### 戦略

自然関連リスクと機会が、組織の事業、戦略、財務計画に与える実際および潜在的な影響を、そのような情報が重要である場合に開示する。

- A. 組織が特定した、短期、中期、長期の自然関連リスクと機会について説明する。
- B. 自然関連リスクと機会が、組織の事業、戦略、財務計画に与える影響について説明する。
- C. さまざまなシナリオを考慮しながら、組織の戦略のレジリエンスについて説明する。
- D. 完全性の低い生態系、重要性の高い生態系、または水ストレスのある地域との組織の相互作用について説明する。



### リスク管理

組織が自然関連リスクをどのように特定し、評価し、管理しているかを開示する。

- A. 自然関連リスクを特定し評価するための組織のプロセスについて説明する。
- B. 自然関連リスクを管理するための組織のプロセスについて説明する。
- C. 自然関連リスクの特定、評価、管理のプロセスが、組織全体のリスク管理にどのように組み込まれているかについて説明する。



### 指標と目標

関連する自然関連リスクと機会の評価と管理に使用される指標と目標を、そのような情報が重要である場合に開示する。

- A. 組織が戦略およびリスク管理プロセスに沿って、自然関連リスクと機会を評価し管理するために使用している指標を開示する。
- B. 組織が自然関連リスクと機会を管理するために用いている目標と、目標に対するパフォーマンスについて説明する。

出典：TNFD発行ベータ版V0.1、2022年3月

# 8

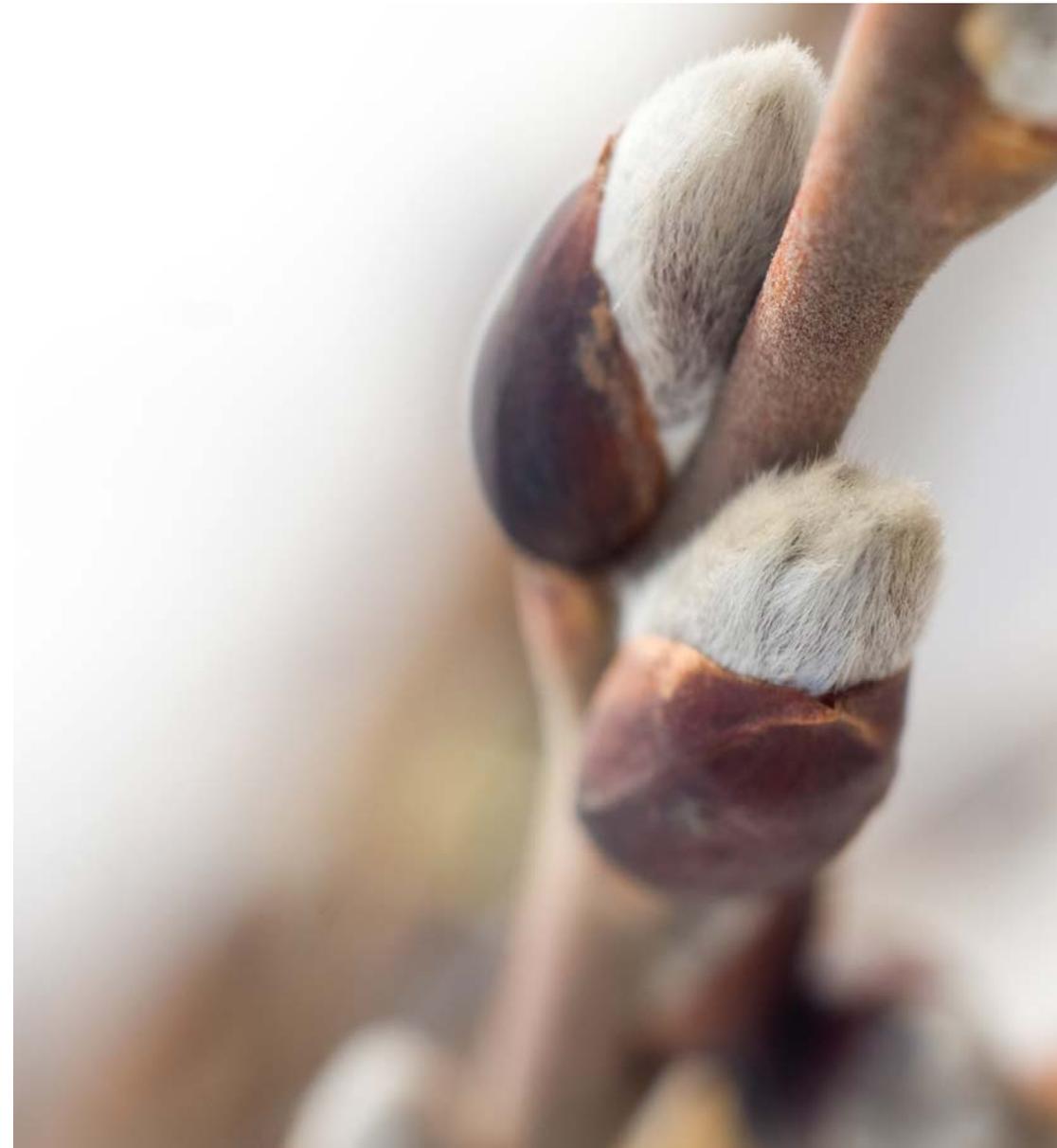
## 公表された その他の ガイダンス

推奨開示のドラフトの他に、TNFDは、**LEAP** (Locate：発見、Evaluate：診断、Assess：評価、Prepare：準備)と呼ばれる、自然関連リスクと機会に関する統合評価プロセスのための、シンプルで科学的根拠に基づいた段階的なガイダンスを開発しました。

LEAPプロセスでは、以下の**4つの中核的な分析フェーズ**から構成され、ガイド的な質問から構成される**17のステップ**に細分化されます。

- 自然との接点を**発見**する
- 依存関係と影響を**診断**する
- リスクと機会を**評価**する
- 自然関連リスクと機会に対応する**準備**を行い、投資家に報告する

LEAPプロセスは、情報開示に関する提言を構成するものでも、TNFDが提案した情報開示に関する提言（ドラフト）を遵守するために強制されるプロセスでもありません。TNFDによる情報開示の提言（ドラフト）を適用するための、企業による分析およびディスカッションを支援する任意のガイダンスです。



# LEAPアプローチ

## 評価のスコoping

**発見する**  
自然との接点

- L1** ビジネスのフットプリント
  - ▶ 当社の直接の資産とオペレーションはどこにあるのか、当社に関連するバリューチェーン（上流と下流）活動はどこにあるのか？

---

- L2** 自然との接点
  - ▶ これらのアクティビティが接点を持っている生物群系や生態系はどれか？
  - ▶ 各地域の生態系の現在の完全性と重要性は何か？

---

- L3** 優先地域の特定
  - ▶ 当社組織が、生態系の完全性が低い、生物多様性の重要性が高い、および／あるいは水ストレスを抱えている地域であると評価された生態系と相互作用しているのはどこか？

---

- L4** セクターの特定
  - ▶ どのセクター、事業部門、バリューチェーン、アセットクラスがこのような優先地域で自然と接点を持つか？

**診断する**  
依存関係と影響

- E1** 関連する環境資産と生態系サービスの特定
  - ▶ 各優先地域で行われている自社のビジネスプロセスと活動は何か？
  - ▶ 各優先地域でどの環境資産と生態系サービスに依存関係あるいは影響があるか？

---

- E2** 依存関係と影響の特定
  - ▶ 各優先地域において、当社の事業全体に関わる自然関連の依存関係や影響は何か？

---

- E3** 依存関係の分析
  - ▶ 各優先地域における自然への依存関係の規模、程度はどの程度か？

---

- E4** 影響の分析
  - ▶ 各優先地域における自然への影響の規模、程度はどの程度か？

**評価する**  
重要なリスクと機会

- A1** リスクの特定と評価
  - ▶ 当社の組織に対応するリスクは何か？

---

- A2** 既存リスクの軽減と管理
  - ▶ 既存のリスクを軽減・管理するアプローチで、すでに適用しているものは何か？

---

- A3** 追加リスクの軽減と管理
  - ▶ 追加で検討すべきリスク軽減・管理行動は何か？

---

- A4** 重要性の評価
  - ▶ 重要なリスクと、TNFDの開示提案に沿って開示すべきリスクは何か？

---

- A4** 機会の特定と評価
  - ▶ この評価によって明らかになる、自社のビジネスにとっての自然関連の機会は何か？

**準備する**  
対応し報告する

- 戦略とリソース配分**
  - P1** 戦略とリソース配分
    - ▶ この分析の結果、下すべき戦略と資源配分の決定は何か？

---

  - P2** パフォーマンス測定
    - ▶ どのように目標を設定し進捗度を定義・測定するのか？

---

- 開示アクション**
  - P3** 報告
    - ▶ TNFD開示提案に沿って、何を開示するのか？

---

  - P4** 公表
    - ▶ 自然に関する開示はどこで、どのように提示するのか？

## ステークホルダー・エンゲージメント（TNFDの開示推奨事項に沿ったもの） 見直しと繰り返し

出典：TNFD発行ベータ版V0.1、2022年3月

LEAPアプローチは、企業のビジネスロケーションおよび事業内容の全体、ならびに金融機関の投資ポートフォリオおよび資産クラス全体における、全社的リスク管理プロセスおよび報告・開示サイクルに沿った双方向型のプロセスです。LEAPアプローチを活用することで、評価範囲を慎重に検討したうえで、評価に着手することができます。

# 9

## ESG報告への TNFDの組み込み

世界のESG報告は急速に発展しています。このような発展のなかで、気候関連財務情報開示タスクフォース (TCFD) による提言に基づく開示が投資家に支持されるようになり、各国 (ニュージーランドや英国、シンガポールなど) の規制当局もTCFD提言に基づく開示の義務化を進めています。

新たに設立された国際サステナビリティ基準審議会 (ISSB) は、投資家を重視したサステナビリティ報告に関するグローバル基準の策定を目指しています。この新しい基準はTCFDの4つの柱に基づき構成され、気候関連事項だけでなく、すべての重要なサステナビリティ関連リスクおよび機会について報告することを企業に求めると考えられます。



TNFDは、ISSB審議会が策定する新しいサステナビリティ基準と整合をとることで、企業が自社の開示において、気候関連のリスク・機会と自然関連のリスク・機会との関連付けを行うことの支援を目指しています。特に、ISSB審議会が自然関連の開示について具体的なガイダンスを発表するまでの間、企業がISSB審議会の基準案に基づいた報告を行う際のガイダンスとして、TNFDの新しいフレームワークが使用される可能性があります。

EUや米国など各地の規制当局も、新たな報告要件を提示し始めています。EUでは、自然関連の開示に関する新しい基準が提案されています。

TNFDは、コンサルティングやフレームワークの開発フェーズにおいて、新設されたISSB審議会などの基準設定機関や、証券監督者国際機構 (IOSCO)、米国証券取引委員会 (SEC)、欧州委員会などの国際的な規制当局および各国の規制当局、国際的な会計機関等と今後も連携していきます。このような連携によって、TNFDの提言は、サステナビリティ報告の新たなグローバル基準と密接に結びついたものになります。

TNFDは、TCFDによる現行の気候関連情報開示に関する提言に類似したアプローチと言語体系の使用に努めています。TCFDは、気候の影響、ビジネスレジリエンス、財務パフォーマンスに関する理解と報告を大幅に改善しました。TNFDは、自然関連の報告においても、TCFDのような成功を収めることを目指しています。

この2つのフレームワークは補完的な役割を果たし、また、これらによって組織が気候関連リスクと自然関連リスクに同時に取り組むことができるようになることが期待されています。自然関連リスクは、気候関連リスクと密接に係わっているため、同時に検討される必要があります。気候変動に関連する財務リスクを評価する際も、気候のフィードバックループおよび臨界点における自然の喪失の影響を考慮することが重要です。気候と自然を統合した開示は、サステナビリティ報告のグローバル基準を確立する国際的な取組みによって支えられ、財務報告の主流に完全に組み込まれます。

TNFDは、そのフィードバックループを大気に関する側面（つまり気候）と大気以外の側面の間で切り離すことはできず、リスク管理と開示において、TCFDとの統合のアプローチは重要であると認識しています。しかし、TNFDの推奨開示のドラフトは主に自然を取り扱っており、気候関連リスクと機会の特定の開示に関してはTCFDを参照しています。

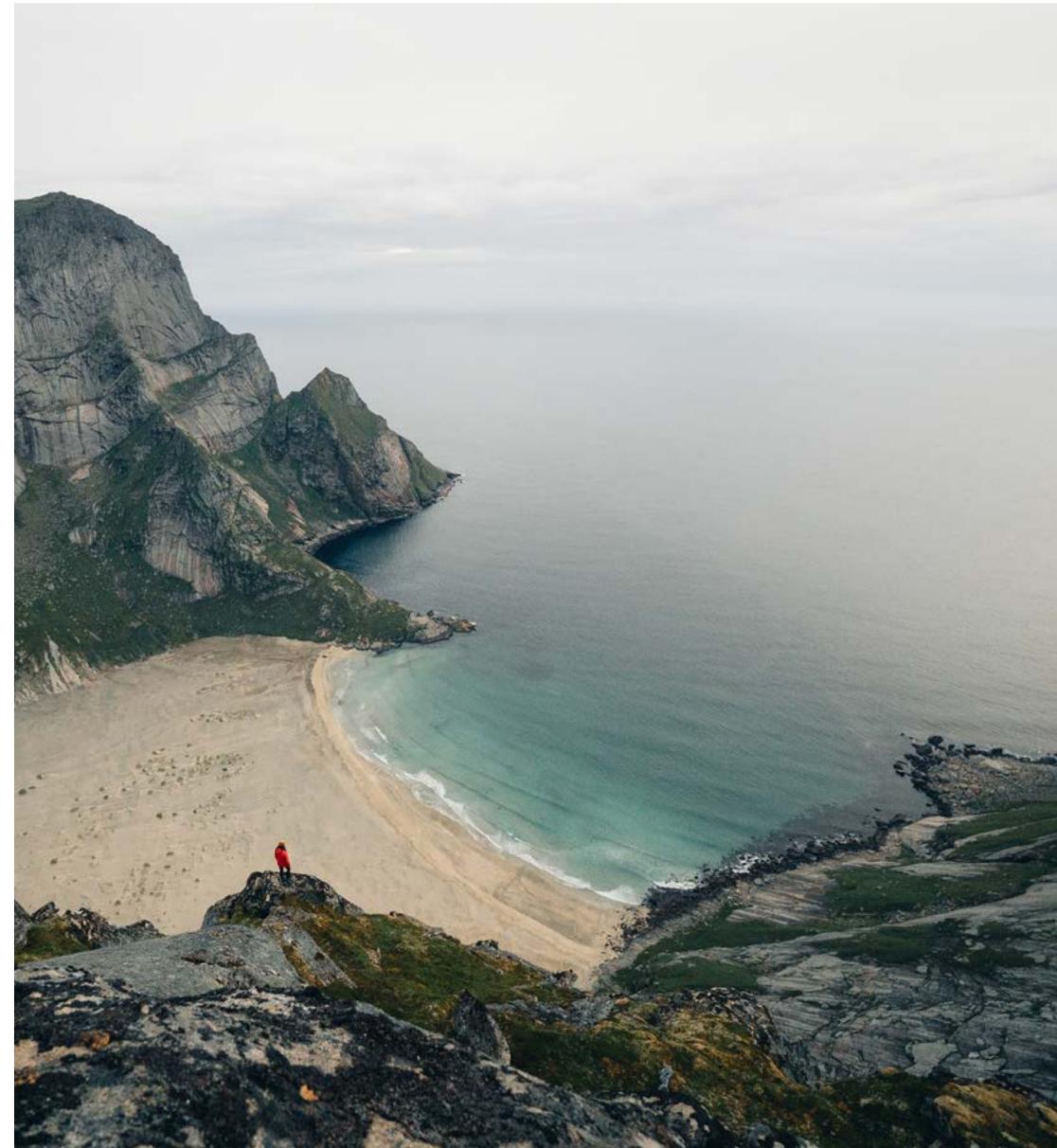
また、TNFDとTCFDの間には重要な差があります。これは、自然関連のリスクおよび機会と、気候関連のリスクおよび機会の違いによるものです。例えば、気候変動に関する報告の方が、自然関連の報告よりも、最も重要な指標の識別が簡単です。温室効果ガス (GHG) の排出量は、全世界共通のトン単位の重量で測定することができます。企業は、排出量測定について広く認識されたGHGプロトコルなどの基準を使用しています。これにより、開示が不完全で見積もりに依拠していたとしても、企業間の比較が可能になります。一方で、自然はより多面的で、生物多様性喪失の状況は場所によって大きく異なる可能性があり、この点は温室効果ガス相当量を普遍的な尺度とする気候変動と異なります。

# 10

## 組織が 今すべきこと

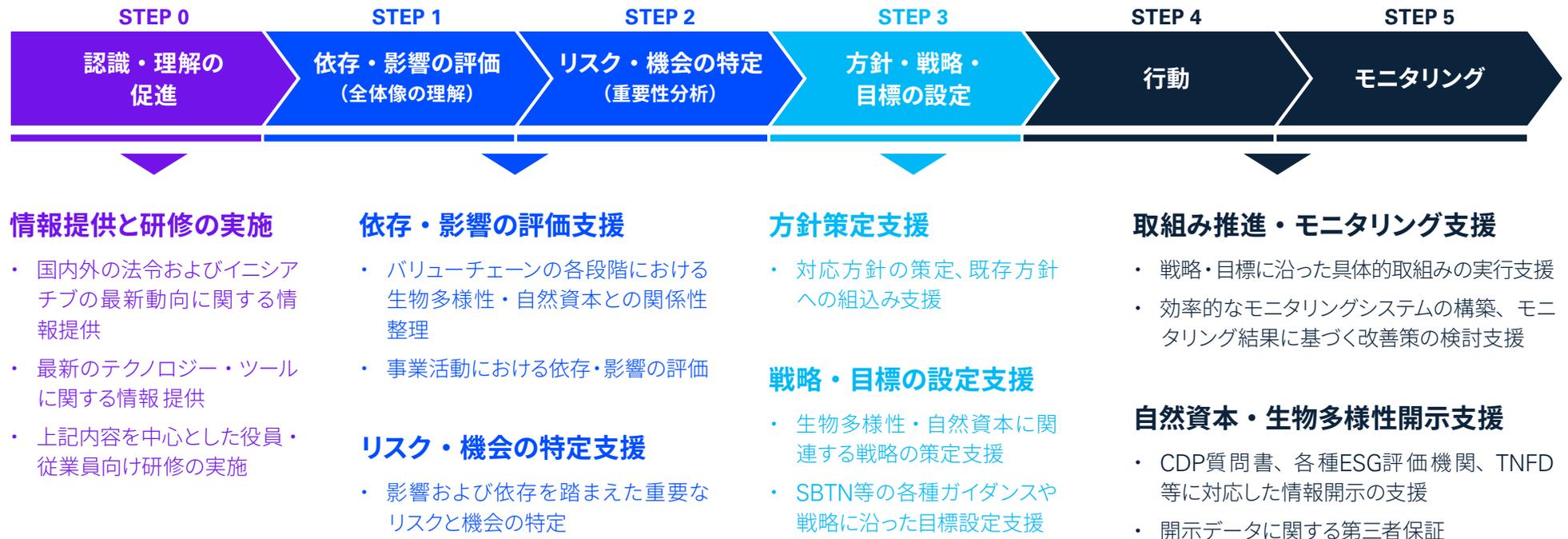
KPMGの専門家は、組織が自然関連のリスクと機会に関する理解と管理に着手し、効果的な開示の準備を行えるよう、4つの重要な対応策を推奨します。

- **教育と計画**：組織内の能力を構築する。自然関連のリスクと機会の評価、管理および報告に関する組織の能力を評価し、目標設定を含む当該のリスクと機会の明確な管理計画を策定する。
- **評価**：TNFDフレームワークおよびLEAPプロセスのテストおよびパイロットに着手し、組織による自然への依存と影響を評価する。評価の優先順位を決め、自然関連のリスクと機会が最も重要となる具体的な活動および事業内容に焦点を当てる。
- **関与**：ポートフォリオおよび事業における自然関連のリスクと機会の状況を理解するために、企業、投資先またはサプライチェーンパートナーとの目的を絞った対話を開始する。
- **レビュー、パイロットおよびテスト**：TNFDのプラットフォーム上のTNFDフレームワーク案についてレビューし、コメントを考え、[www.tnfd.global](http://www.tnfd.global)上のTNFDデジタルパイロットテストを通じてベータ版に関するフィードバックを提供する。資源および時間を配分する前に、パイロットの実施可能な範囲について確認する。集中的なパイロットテストの実施規模および範囲を把握するために、初めにデスクトップ上でのテストの実施を検討する。



## KPMGによる生物多様性・自然資本支援サービス

KPMGは、企業、パブリックセクターを含む組織の生物多様性および自然資本に関連する多くの戦略策定を支援してきました。この豊富な経験を活かして、以下のような支援サービスを提供しています。



# Contacts

**KPMGあずさサステナビリティ**

**KPMGサステナブルバリューサービス・ジャパン**  
sustainable-value@jp.kpmg.com

[home.kpmg/jp/socialmedia](https://home.kpmg/jp/socialmedia)



本冊子で紹介するサービスは、公認会計士法、独立性規則および利益相反等の観点から、提供できる企業や提供できる業務の範囲等に一定の制限がかかる場合があります。詳しくはKPMGあずさサステナビリティ株式会社までお問い合わせください。

本冊子は、KPMGインターナショナルが2022年4月に発行した「Introducing the TNFD Beta Framework」を、KPMGインターナショナルの許可を得て翻訳したものです。翻訳と英語原文間に齟齬がある場合は、当該英語原文が優先するものとします。

ここに記載されている情報はあくまで一般的なものであり、特定の個人や組織が置かれている状況に対応するものではありません。私たちは、的確な情報をタイムリーに提供できるよう努めておりますが、情報を受け取られた時点およびそれ以降においての正確さは保証の限りではありません。何らかの行動を取られる場合は、ここにある情報のみを根拠とせず、プロフェッショナルが特定の状況を綿密に調査した上で提案する適切なアドバイスをもとにご判断ください。

KPMGは、グローバル組織、またはKPMG International Limited (「KPMGインターナショナル」) の1つ以上のメンバーファームを指し、それぞれが別個の法人です。KPMG International Limitedは英国の保証有限責任会社 (private English company limited by guarantee) です。KPMG International Limitedおよびその関連事業体は、クライアントに対していかなるサービスも提供していません。KPMGの組織体制の詳細については、<https://home.kpmg/xx/en/home/misc/governance.html>をご覧ください。

© 2022 Copyright owned by one or more of the KPMG International entities. KPMG International entities provide no services to clients. All rights reserved. The KPMG name and logo are trademarks used under license by the independent member firms of the KPMG global organization.

© 2022 KPMG AZSA Sustainability Co., Ltd., a company established under the Japan Companies Act and a member firm of the KPMG global organization of independent member firms affiliated with KPMG International Limited, a private English company limited by guarantee. All rights reserved. 22-1065

Designed by Evalueserve.

Publication name: Introducing the TNFD Beta Framework | Publication number: 138022-G | Publication date: April 2022

**ご登録いただくと、ESGおよびKPMG IMPACTに関連する最新情報をタイムリーに受信できます。**

